

2020年度 但馬定住自立圏共生ビジョン懇談会（豊岡市分科会）
会議録（要旨）

日時 2020年8月18日（火）
豊岡市分科会 10:00～11:00
場所 豊岡市役所3階 庁議室
出席者 豊岡市分科会 6名中5名
欠席者 豊岡市分科会（全但バス株式会社）
事務局 豊岡市（政策調整部長、政策調整課長、政策調整課課長補佐、政策調整係主査）
オブザーバー 豊岡市（環境経済部大交流課長、観光文化戦略室長）

◎協議

分科会長
事務局

それではまず、事務局から共生ビジョンの変更について説明をお願いします。

<説明> 【共生ビジョン(案)について】

【専門職大学について】

分科会長

事務局から説明を受けました。共生ビジョンの変更にあたっては、この懇談会が討議・懇談の場となっております。質問等がありましたら、お出しいただきたいと思えます。また、資料、送付文書に記載してありましたが、皆さんは各分野から選出されていますので、その分野の内容でも、それ以外でも、どちらでも結構ですので、但馬地域の定住人口増加に向けた内容のお考えですとか、将来的にこういった取り組みが必要だというようなお話をしていきたいと思っております。何かご意見やご質問はありますでしょうか。

委員

事前にいただいた資料で、気になった点がありました。資料2の5ページ、コウノトリに関係するところです。コウノトリ文化館の入場者数が年々減少しているということですが、逆に事業費のほうは、共生ビジョン(案)の61ページになりますが、2019年度と比べて2020年度が100万円ほど増えている。文化館の入場者数の減少と比例していない。何が増えたのかなと思ったところです。

分科会長
事務局
委員

事務局、予算の根拠はわかりますか。

申し訳ございません。事業内容の確認をとっておりません。

併せてですけれども、文化館の入場者数が減ってきていますけれども、目標値が30万人というのは、ちょっともう厳しいのかなというのを感じています。なぜかと言いますと、以前はコウノトリを見るなら豊岡というイメージがすごくあった。だからこそその来館者数だったと感じています。ただ、現状、資料2の5ページ、コウノトリ生息地保全対策事業のところで、コウノトリの定着羽数が増えているのですが、これはたぶん但馬内のコウノトリの数になると思えますが、全国的にコウノトリが増えてきていて、全国各地に定着してきているというような現状がありますので、豊岡に来なくても、それぞれの地域で定着していて、それを生かしたまちづくりとか、見せ方をすると、豊岡に来なくてもいいというような流れが出てくるのではないかと感じております。です

ので、目標値 30 万人というのは現実に合った目標値に変更したほうがいいのではないかと個人的に思います。

事務局

おっしゃるとおり、かなりかけ離れた数字になっております。コウノトリ文化館の関係だけではなく、他にもそういったものがいくつも見受けられるのですけれども、言いましたように、来年度で現計画が終わります。次の計画のときにはそのあたりも見直したいと思っております。また、そもそもコウノトリの入場者数を指標として設定するのがいいのかどうかということも、またご意見をいただきながら変更していきたいと思っております。

委員

コウノトリを見にくるという来館者数・入場者数を基準にするのではなく、もっとコウノトリを核とした文化の普及啓発や国内外への情報発信の成果とか、あとは、子どもたちへの環境教育への展開という、そちらのほうをメインにしていってもいいのかなと感じました。

分科会長

ありがとうございます。目標値に関してはまた後日、次の機会にでも協議していきたいと思っております。それを言いますと、観光入込数ですが、確かに目標設定をした段階では可能ではないかということでしたが、やはり5年、6年経ちますと、少し厳しい部分も出てくるので、また今年度終わりましたら協議していけばいいのかなと思っております。

委員

先ほど大学のところで、8億円寄付と言っておられましたが、出資ではなく寄付とした理由を知りたいと思いました。

オブザーバー

今、想定されている大学というのは、県立の大学法人が運営することを想定しています。県営の大学になる、そこに対して、市町はどう関わっていくのかということの整理の仕方だと思います。法人に出資をし、法人自身に豊岡市が加わるという方法もありますけれども、法人は法人として、別的人格とし、豊岡市や但馬全体がお金を出して、最初の資金の一定の役割を果たすと言いますか、資金的な関わりを持つということになると思います。大学を運営するのは兵庫県の大学法人。その出資は県がする。県は毎年予算を組んでいきますけれども、市として1回だけ、最初の設立に関する経費の一部を8億円という寄付で負担をしたと、そういったかたちになっています。

寄付という言葉のもつ意味とか印象は人それぞれによって違うと思いますけれども、行政的な寄付という行為があって、それは一般的な寄付ということと、完全に同一ということではないです。

分科会長

先の説明の中で、5億円で土地を購入し無償譲渡するというのがありました。あれは8億円の中に入っているのですか。

オブザーバー

別です。それとは別に8億円を。8億円というのは、この定住自立圏構想により、毎年1億円ほど豊岡市に入ってきます。これを財政調整基金に積み立てていますが、定住自立圏構想の中で専門職大学をみんなで誘致して作ろうというために積み立てている。この積み立てているお金を専門職大学を作るために使ってくださいと、寄付という言葉を使って出資、出しているということです。

委員

出資することを寄付と呼んでいると。

オブザーバー	<p>出資というのは、大学の法人の運営にも関わることです。「負担した」ということです。建物を建てたりするのに35億円ぐらいかかっている。先ほど説明したとおり、定住自立圏共生ビジョンに位置づけるということは、我々として、大学を誘致するということを決意しているわけです。何もない中で県が作ってあげますと、持ってきた大学ではなく、地元の側からぜひ、但馬にとっては若者を定着させるために、4年制の大学が必要なのだと。県として作ってほしいと。その場合に地元としても一定の役割分担と負担はしますよということを前提をお願いしてきました。その一定の役割と負担の一部が8億円の寄付であったり、用地の提供であったりということになっています。</p>
事務局	<p>誘致するのに地元の負担もやはり要りますよということで、用地の無償提供とか、建物の一部負担とか、地元も出してくださいよというようなことです。</p>
オブザーバー	<p>それが高いのか安いのかという議論は当然あると思いますし、もっと違った関与の仕方があるのではないかと議論もあるとは思いますが、我々としては、議会・市民の方に説明をしつつ、この方法が一番いいのではないかと、この方法を採用させていただいております。</p>
分科会長 委員	<p>よろしいでしょうか。 せつかく専門職大学の話題が出たので、ちょっと質問をしたいと思います。但馬の若者が流出していくのを防ぐための切り札として位置づけられているというような説明も受けたのですが、専門職大学で求められている学力とか、英語力がかなり高くないとダメだということを聞いております。但馬の学生がどれぐらい行けるのかとか、そのようなものはあるのでしょうか。</p>
オブザーバー	<p>公立大学ですので、指定校推薦という制度が取れません。この80人の中で但馬の学生をこれだけ確保するという事は、制度的には難しいと考えています。また、県からいただいた情報によると、資料請求されている方々の高校のレベルと言いますか、相当競争率が高くなるだろうと言われていますが、悲しいかな地元の子たちの資料請求はあまりありません。但馬以外の人たちが評価して、興味を持っていただいている状況と、地元の生徒たちは興味を持っていないと言いますか、そういった現状があるかと思っています。</p>
	<p>80人の学年なので、ここに何人豊岡の高校生を行かせてとどめるかというのは、数字としてはすごく小さな数字だと思っています。ただ、そうではなくて、そのことによって豊岡の価値が高まって、一度出たけれども、こちらに帰ってくる学生が増えたり、総合的に若者たちに選ばれるまちになるための切り札というふうに考えていて、80人のうち何人地元の学生が入るかということだけが勝負ではないというふうに思っております。</p>
委員	<p>但馬の高校生の意識とか、それがどうかというような調査はされていないですか。</p>
オブザーバー	<p>しています。総じて、但馬の方は、まず大学ができるかということに対する懐疑的な意見があったり、大学ができてもし徒が集まるのかという懐疑的な意見があったり、大学ができてもし先生は来ないだろうというような意見があって、</p>

結局、成功しないと信用してもらえないのかなというふうに思っています。そのところはもう少し時間がかかるのではないかと思っています。そこは県と一緒に地道にやっていく必要があると思っています。

委員

高校生の意識を調査されたということですか。

オブザーバー

全国的な、ある程度絞ったかたちでのアンケートはしました。

委員

保護者の方の考え方というのは調査されましたか。

オブザーバー

はい。やはり観光と芸術で、なかなか食べていけないのではないかとというような感覚を持っている保護者が多いです。

委員

就職が不安。

オブザーバー

いわゆる出口と言われているのですけれども、入った後の就職が、ちゃんとあるのかどうかということを疑問視されているとか、不安に思っておられる方は結構いらっしゃって、そこもやはり実績を積んでいくしかないと思っております。

委員

分かりました。

分科会長

ありがとうございます。県立大学ですので、兵庫県のお子さんは、確か授業料がすごく安かったですよね。そういったメリットもあるので、地元の人を選ぶのかなと。僕ももう少し先の話ですけど、子どもが興味を持ってくれたらなと思った一人なので、授業料のことは少し気になりました。ありがとうございます。

委員

子育てセンターは、現在 Aity 7 階ですね。それが 4 階に移ると聞いたのですが、そのあと 7 階はどういうふうに利用されるのでしょうか。

事務局

今はまだ構想段階でございます。一応今のところは子育てセンターが 4 階に、その空きスペースは、これからどのようにするか決めていくということでございます。

分科会長

ありがとうございます。他、何かございますか。

委員

移住関係の状況、I ターンも確かに力を入れなければならないと思いますが、U ターンを増やしていくほうが重要かなと。

せっかく小中高と色々な施策で育ててきた人材というか、そういう子どもたちが但馬から出てしまって帰ってこないというのは、非常にもったいないと思うので、もっと U ターンできるような施策とか、子どもたち本人だけに問いかけるのではなくて、むしろ、送り出した親というか、そちらのほうにもっと働きかけるような、そういうような施策とか、そういう指標というか、そういうものを作って補強していただいたらいいのかなと思ったりします。

事務局

この指標にはないですけども、先ほどからあります、豊岡の価値を高めるとか、但馬の価値を高めるとか、このあたりの施策というのは、それぞれで頑張っているところですので、引き続き施策のほうは進めていきたいと思っておりますし、指標を何にするのかというところは、次期ビジョンに向けて検討していきたいと思っております。

分科会長

よろしく申し上げます。他、どなたか。

事務局 最初にご質問いただいたコウノトリの野生復帰事業です。事業費が上がっている関係ですが、これは事業費の区分を変えた関係がありまして、去年は地方創生という区分で執行しておりました分を今年移動しております。実際には去年のほうがバードフェアに行ったり、いろいろな事業をしていた関係があつて、多かつたということでございます。

分科会長
事務局 観光もそういった意味合いがあるのですか。

事務局 59 ページ、観光資源整備・活用事業ですけれども、今年度はいろいろと事業を取り込んでおりまして、昨年と比べると増額ということになっております。具体的に言いますと、交通改善計画策定であるとか、花火関係であるとか、北前まつりであるとか、既存の事業が入っております。

事務局 予算、事業費を組み替えた形で、このようになっておりますので、ここはもう一度精査して、最終版ができるときには確認をして、同じ土俵で金額が出せるようにさせていただきたいと思ひます。

分科会長 比較の問題がありますので、お願ひします。

1 つだけちょっと言わせていただきたいのですが、私は観光をやっております、最近防災との兼ね合いを考える上で、観光客の避難誘導が出石はおろそかになっていひます。城崎は、例えば、夜、地震が起こつた場合に、宿泊している観光客をどう誘導するか、どこに逃がすというのはあると思ひますが、出石でもし昼間に何かあつた場合に、というのがないのです。地元も当然そういったことは考えていくのですが、行政サイドとしても、防災と観光という観点から、少しご意見なりご指導いただけたらと思ひていひますので、ぜひ一度考えていただけたらと思ひます。特にお客さんに知らせる方法が何もなくて、少し心配しておひます。これも今後の課題ということで、よろしくお願ひします。

委員 先ほどUターンの事業で現状値の話がありましたが、目標値を見ると説明会の800人と書いてあります。この800人が就く業種って何でしょうか。そこはどこのページを見たらいいですか。

分科会長
委員 説明会の参加人数ですね。

委員 参加してきて、何人ぐらい定住してもらえればということ考えたときに、但馬を盛り上げようと思つたら、応募してきた人全員が職に就けるぐらいでないと人口は増えないわけですよ。それから、我が子が帰つて来ようと思つたときに、職は何があるのかと聞かれたときに、どこを見たらいいですか。

事務局 個別の資料は付けていない状況です。ただ、市内にどのような事業者があるかというのは、市で、90社ぐらいの企業を載せた本を作つておひます。そこに載つていひる企業が一堂に会して学生たちに、うちの企業はこんなだよというようなことをPRする機会があつて、そこに訪問するのが800人ということになります。今、委員がおっしゃるのは、実際にどんな企業が出ていひるのかというようなことですよ。

委員 そうですね。やはり3人子どもがいて、2人外で働いて、もう1人は大学生ですけれども、誰か1人家に帰つてきてほしいなと思ひうのですが、今就いて

いる職と同じぐらいの収入がないと、うんとは言わないと思うのです。今、いちばん下の子に但馬に帰ってきてねと言って、勧められる職がなかったら、但馬に帰ってきてねとは言いづらいなと思いました。まちとして魅力があるというのはもちろんですけども、それ以前に、職場がないことには帰って来られないと思います。

事務局

住むところも職も、そういうものがないと帰ってこれないというのがあって、豊岡市ではジョブサポというようなところで相談窓口を設けて、昨年はお盆の期間中に、市役所で2日間開催しました。今も2階の環境経済課というところで、随時相談も受けておりますので、そこに行けばこのような職種がございますとか、希望に合ったようなところがないですかというふうに言えば、探して、相談に乗ってくれます。

委員

相談に乗ってくれる場所が提供されているということですね。

事務局

そうです。随時行っています。他にも大阪のほうに出かけて行って、京阪神の学生を中心に集めようという、そういうイベントもやっているということです。

オブザーバー

ここにあります北部合同企業説明会というのは、大阪の会場を借りて、そこで企業説明会をしますから、但馬の企業さんにそこでブースを出しませんかと募って、企業がブースを出し、そこに学生が来て、それぞれ各会社の情報を聞いたり、というようなイベントをやっています。それが北部合同企業説明会というようなものです。58ページです。

委員

分かりました。

委員

今の話は非常に重要で、保護者の方が子どもに対してアクセスするためには、自分も情報を知らないといけないので、そういう説明会も地元でどんどんやってもらったほうが子どもの支援にもなるということです。もっとそういう施策をやってほしいというのは私も同じ思いです。

オブザーバー

やっていることをお伝えする、お届けするというのがすごく難しく、せっかくやっているのに情報が届いていない、知らなかったということが結構あって、そこは市役所はいろいろ難しく、下手なところがあると認識しています。

分科会長

他、ないようですので、5の協議事項については、これで終了させていただきたいと思います。ありがとうございます。